

ナンテン

お正月を飾る門松につきもののナンテン。庭木としてごく普通に植えられていますが、ハイヅカ湖周辺の林床や林縁には、ビックリするくらいたくさん自生しています。よほど生育に適しているのでしょうか。



これまで日本在来種と思っていたのですが、調べてみたら、薬用植物として中国から持ち込まれ、小鳥の種子散布によって帰化したというのが定説になっているようです。そう言えば、以前住んでいた十日市の借家の庭の、クロガネモチの下にも、たくさん実生が生まれていました。ご近所の庭から、小鳥が種を運んできたのでしょうか。

実はアルカロイドが含まれていて、末梢神経を麻痺させる作用があり、咳止めなどに利用されます。小鳥も、少しずつしか食べないので、喉がいがらっぽい時だけ食べるのかもしれませんがね。また、葉や茎が赤飯などに添えられるのは、単に縁起が良い印象からだけではなく、解毒作用があるからだそうです。

縁起が良い由来が、「難転」の字をあてて「難を転ずる」という話は知っていましたが、「成天」で「万事成就する」という意味もあるそうです。復興にむけて、ナンテンの年になりますように。